

みんなが幸せになる学校を目指して

4月1日、最初の職員会議で、学校経営方針などを説明した後、自分の思いを職員に伝えました。

「私の仕事は学校に関わる全ての人を幸せにすることです。そのために、まず先生方が幸せであることが大切です。先生方の幸せが、子供たちの幸せや保護者、地域の幸せにつながるからです。」等々…

これには、「人を大切にしたい学校経営をしたい」という私自身の思いが根底にあります。また、昨今の採用試験の倍率低下や教師不足の問題を何とかしたいという願いから、先生方が生き生きとカッコ良く働く姿を見せることが最も重要な解決策であるとの思いがあります。我々の仕事は日本の将来を担っているのだから、「〇〇先生みたいになりたい!」という子供たちを増やしたい、という思いです。

そのために、とにかく「笑顔と活力あふれる居心地の良い職員室をみんなでつくみましょう」と伝えました。いろいろ大変なことがあっても、職員の関係さえ良ければ何とかなるものです。私自身は、毎日、できるだけ機嫌良く過ごすことや、先生方への「感謝とリスペクト」の気持ちを大切にすることを宣言しました。

この他に、私は校長になり、自分の中で決めていることがいくつかあります。「全校児童 99 人の名前を 4 月中に覚える」ことを PTA の会合で宣言し、実行しました。また、「できるだけ授業を観に行く」ことも私が大切にしたいと考えていることの 1 つです。

4 月は、出張や様々な仕事に追われる日々でしたが、それでも時間を見つけて何度も授業を参観しました。以下は、校長だよりの一節です。

どの授業も自然と顔がほころぶ。

「心が癒される」とはこういうことを言うのか。

どの授業もととてもいい。

子供の表情が全てを物語っている。

子供が生まれながらにして持っている知的好奇心を、先生方がうまく引き出している。

だから、子供は自然と前のめりになる。

正門で何人かの子供に「今日の楽しみは何?」と聞いた。

すかさず「〇〇と〇〇(〇〇は教科名)」と答える子供たち。

授業中、何人かの子供に「お勉強楽しい?」と聞いた。

すかさず「うん!」と笑顔で答える子供たち。

嬉しいなあと思う。

子供たちは、学ぶ喜びや楽しさを感じている。

それは、先生方のおかげ。

今日もまた、先生方への「感謝とリスペクト」である。

最後に、保護者の皆様や地域の方々が学校に対して協力的で、温かく見守ってくださることは、とてもありがたいことです。子供たちの力になるだけでなく、職員の力にもなります。

これからも、変わらぬ御支援、御協力をお願いいたします。